ザンビア

【国名】

国名は、アフリカで４番目に長い「ザンベジ川」に由来。

【国旗】

ザンビア国旗

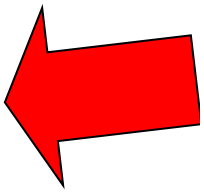
緑：森林と農産物の実り

鷲：自由と栄光

３色の帯：「赤」が独立のために犠牲となった国民の血、「黒」がザンビア人、「オレンジ」が銅に代表される豊かな鉱物資源を表す。

【国土】

標高９００ｍから１，４００ｍの高原に位置するアフリカ南部の内陸国で、８か国と国境を接する。面積は日本の約２倍（752,614 平方キロメートル）。首都はルサカ。人口は２，０５７万人（２０２３年世銀）。



【宗教・言語】

●国民の９５％以上がキリスト教徒（うち、プロテスタントが７５％）であり、公式に自らを「キリスト教国」と位置付けている。その他は、ヒンドゥー教、イスラム教、土着の宗教。

●７０を越える部族に分かれるが、部族間の対立が顕在化することはほとんどない。

●公用語は英語。そのほか、教育、裁判等での使用が認められている７つの主要言語を含め、７２の現地語がある。

【内政・外交】

●独立以降、平和裏に３度の民主的政権交代を実現。アフリカ大陸にあって内戦やテロと無縁なザンビアは「平和の曙光（Beacon of Peace）」と称される。治安も安定。ＰＫＯへの部隊派遣や難民の積極的な受入れ等、地域の平和と安定に貢献。

●２０２１年に就任したヒチレマ大統領（実業家出身）は、平和、民主主義、汚職撲滅等を掲げ、西側民主主義諸国との関係強化、周辺国との地域協力を推進。債務再編を含めた経済再生を目指している。

●我が国は１９６４年の独立と同時に同国を承認し、１９７０年にルサカに大使館を設置。ザンビアは１９７５年に東京に大使館を設置。

●１９６４年１０月２４日が独立宣言の日。同日は東京五輪の閉会式があり、この際ザンビア国旗が初めて国際場裡で掲げられた（開会式（１０日）の際は「北ローデシア」の旗の下に行進）。なお、閉会式当日のザンビア独立予定を知った東京オリンピックの舞台裏では、関係者が徹夜で手作りの国旗を縫い上げて閉会式に間に合わせたと言われている。

【経済・産業】

●銅・コバルト資源に恵まれ、銅の生産量が世界第６位、コバルトは世界第１１位。ニッケルやマンガン等も有力。

●銅及びコバルトが輸出額の７割を占める最大の輸出品だが、ヒチレマ政権は積極的な新鉱脈の開発と金属加工業の振興等を通じ、一層のテコ入れを図っている。新たな鉱山ビジネスの誘致にも積極的。輸送インフラが最大の課題であるが、米国・ＥＵ支援による大西洋（アンゴラ）に通じるロビト回廊の輸送網整備、中国資本による幹線道路の複線化整備など、ボトルネック解消に向けた取組も進展中。

●エメラルドは品質においてコロンビア産を凌ぐ世界一と言われており、ルビーを除きほぼ全ての宝石を産出する知られざる宝石王国でもある。

●第８次国家開発計画（８ＮＤＰ）においては、民間ビジネス主導の経済復興、若者の雇用と人材・社会開発を主要目標と位置付け、鉱業と並び製造業、農業、観光業がＧＮＰ増を担い得る主要産業と位置付けている。

●２０２３年６月に公的債権者委員会が、２０２４年２月に、ユーロ債債権者委員会が債務再編に合意したことで再編完了への道が開けた。ザンビアの事例は他国の債務再編プロセスの一つのモデルとなることが期待されている。

●国内発電量の約８割を水力発電に頼っており、その大部分は貯水量世界最大の人造湖を形成するカリバダムにあるカリバ北岸発電所やカフエ発電所で発電される。そのため、干ばつによる貯水量不足が生じると、長時間の計画停電がしばしば実施される。なお、発電量の約半分は鉱業部門で消費される。

【観光】

（ビクトリアの滝ほか）

●ビクトリアの滝は、ザンベジ川の中流、ジンバブエとザンビアとの国境に位置し、幅約１．７ｋｍ、落差約１１０ｍにも達する。１９８９年に世界遺産に登録された。北米のナイアガラの滝、南米のイグアスの滝と共に世界三大瀑布の一つとされている。現地語では『Mosi-oa-Tunya（モシ・オ・トゥニャ）』（「雷鳴轟く水煙」の意）と呼ばれる。１８５５年に探検家デイビッド・リビングストンがこの滝に到達し、ビクトリア女王の名前を冠したもの。

ビクトリアの滝

●南部アフリカ地域の地下水脈の３分の２はザンビアに所在していると言われ、ビクトリアの滝以外にも多くの名瀑が全国に散在

している。北部州のチサンバの滝やタンザニア国境のカランボの滝は特に有名である。

（自然公園）

●ザンビアは野生動物の宝庫であり、ライオン、キリン（固有種あり）、ヒョウ、チーター、ゾウ、カバ、インパラ等カモシカ類、シマウマ、バッファローなど約６０種類が生息するほか、ザンビア国旗に描かれるウミワシ（Fish Eagle）や珍鳥ハシビロコウ（Shoebill）を始め４００種類を超える鳥類が生息する。

カフエ国立公園

●ザンビアは、世界第二位の規模を誇るカフエ国立公園（約２．２万ｋ㎡）を始め、約２０の国立公園を有し、野生動物を楽しむことができる。ナイト・サファリが可能な数少ない国であるほか、ウォーキング・サファリの発祥の地（サウス・ルアングワ）でもある。

（ザンベジ川）

●ザンベジ川の下流には、動植物豊かなローワー・ザンベジ国立公園や、上述の世界最大級の人造湖カリバ湖があり、多くの観光客が訪れる。また、水中にはタイガーフィッシュと呼ばれる巨大魚が生息している。

【スポーツ】

●国民に最も人気のあるスポーツはサッカー。２０１２年アフリカ選手権では、ザンビアが初めて優勝した。また、２０１７年Ｕ－２０アフリカ選手権で優勝。２０２３年女子ワールドカップでは日本とも対戦したが惜敗、一次リーグ敗退となった。

●東京オリパラ２０２０では、女子サッカーザンビア代表のキャプテンであるバーバラ・バンダ選手が、五輪女子サッカー史上初となる２試合連続のハットトリックを決めた。また、アルビノに対する差別や偏見

に屈することなく、パラ陸上に出場したモニカ選手に対して、多くの日本人がエールを送った。

●柔道もオリンピックに出場する強豪国であり、２０２２年にアルジェリアで行われたアフリカ選手権でムンガンドゥ選手が６６キロ級で銅メダルを獲得した。１９７０年、ザンビアに最初に派遣された青年海外協力隊員６名は全員柔道指導者であり、その後５０年のＪＯＣＶ活動の基礎を作った。その中の１名は、日本で英語の教科書にも取り上げられた松下文治氏。多くのザンビア人柔道家・指導者層が同人から稽古を受けた。

【食事】

（シマ）

●ザンビアの代表的主食は、メイズ（白トウモロコシ）粉を湯で溶き、加熱しながら練ったシマ（Nshima）と呼ばれるものである。皿に盛ったシマを適量手で掴み、煮込み野菜や肉料理とともに食べる。

シマ

（ザンビアのブランド牛「ザンビーフ」）

●ザンビア人は肉好きとして知られているが、ザンビア名物の一つが「ザンビーフ」（Zambeef）。一般名称ではなく、ザンビア企業のブランド名である。（ザンビーフ社は、その名前から食肉業が想像されるが、実態は総合農畜産企業。）

●ザンビアでは労働人口の約７０％が農業に従事しており、うち約１７％が畜産業に携わっている。国内の牛肉生産量は年間約２１万トン。生産量で世界４９位（２０２１年）。

【皇室との関係】

●１９８３年、皇太子同妃両殿下（当時）が１９８０年のカウンダ・初代ザンビア大統領の訪日への御答礼として、ザンビアを御訪問された。その際、ザンビア側から、当時深刻な被害をもたらしていた家畜伝染病の研究・開発の必要性が説明されたことをきっかけに、ザンビア大学に獣医学部を設立することが決まり、我が国の支援を受けて１９８６年に完成した。これまで北海道大学から２００名以上の研究者がザンビア大学で研究指導を行い、またザンビア大学からも多くの学生・研究者が北大に留学す

るなど、３０年以上に渡り緊密な協力を実施。日・ザンビア間の友好関係を象徴するフラッグシップとなっている。

●１９９９年には、高円宮同妃両殿下がザンビアを御訪問になり、日本の無償資金協力で建設された小中学校の引渡し式に御出席になった。この小中学校は「高円宮小中学校（Prince Takamado School）」と命名された。

●２０１４年６月には、日ザンビア外交関係樹立５０周年として秋篠宮同妃両殿下が御訪問された。カウンダ初代大統領に表敬されたほか、カブワタ文化村、リビングストン（ビクトリアの滝）、ザンビア大学等を視察された。

（了）